

1年間の活動のまとめ—成果と課題—

	【令和2年度の反省・令和3年度の課題】	【令和3年度の重点】	【成果と課題】
教科指導面	思考・判断・表現の育成は定着してきたものの、依然、学力向上にはつながっていない。育成したい生徒像をしっかりと描き、生徒の学ぶ意欲を高めるにはどうすればよいか。	生徒に身に付けさせたい資質・能力の明確化「松陽プライド」の浸透と具現化に取り組み、更に授業の効率化と質の向上を目指す。ICT器機の活用や教科横断の視点からも研修を重ねる。	センター提携の研究公開等において「松陽プライド」の9つの力を研究授業に取り入れ、また、ICT活用は支援員の協力を得て研修を実施した。今後は平常日のICT活用の普及を目指す。
生活指導面	生徒の生活態度や部活動等の活動は良好であるが、ボランティア活動や地域との関わりも強化。また不登校傾向の生徒や保護者に対処しつつ、登校対策委員会までの事前検討会を実施し情報共有する。	授業、特別活動、部活動、学校行事、総合的な探究、ボランティア活動など、バランスのとれた高校生活を実現するために、体力や心のケアに留意する。 「One for all, all for one」	感染状況を見極めながら可能な限り教育活動を実施したことで、生徒に学校全体のまとまりや学年の連帯等を実感させることができた。分散登校時等にも家庭と連携をとり生徒のケアに努めた。
進路指導面	学科・コースの活動は良好であったものの、進路実現やClassi等の活用は不十分な面もある。生徒の特性や個性に応じた指導体制をどうするか、課外の在り方や選択など質の向上を図る必要がある。	本校生徒に特化した進路アドバイスの重視。内規等を柔軟に捉えて、学校推薦や自己推薦を推奨。保護者を交えて、不確実で変化の激しい今日の新しい進路の可能性を展開。	各科・コースにおいて生徒の意欲と特性を最大限活かした進路指導を行い、国公立推薦入試では一定の成果を得た。新教育課程に向けては評価の在り方を確立していく必要がある。
施設設備面	来年度の創立40周年を跨いだ外壁塗装などの4カ年計画も本年度から着工された。GIGA構想の整備やエアコンのガス化、生徒送迎車の校内乗り入れなど今後、調整しながら活用する。	See-Smileの活用と般化、タブレット型PC環境の整備など、ICT活性化や業務改善にも関連するため、活用と並行しながら適切な研修や他の事例Q & A等の情報共有。	本年度の外壁工事は無事終了した。See-Smileを全職員で有効に活用し会議の回数削減につながった。タブレット活用については回線環境が改善する来年度に向け、実践事例を研究していく。
その他	音楽科・美術科の推薦入学志願者は適正だったが、音楽科一般と普通科については、極端な減少があった。中学校への丁寧なPRや上級学校説明会での差異化等にてより一層のアピールを行う。	現役生徒による中学校でのPRや各コース学科からの広報活動。ホームページやブログの適宜更新。パンフレットやポスターを一新、新しいSHOYOを強調して生徒確保。	上級学校説明会での現役生徒から中学生へのメッセージ及びHP等の刷新は志願者増に一定の成果があった。感染状況が収束すれば本校の特色を活かし、地域や小中学校との交流等も実施したい。